

VB.NET

コンポーネント活用講座
～ 教養課程 ～

スモールパーツ プログラミング

第12回

小森 大輔 KOMORI, Daisuke

ComboBox コントロール

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level

Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥SMALLディレクトリに収録しています。

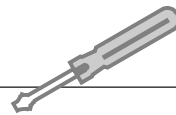
¥DROPDOWNSTYLE
DropDownStyle プロパティを使用した表示形式の変更

¥LISTSIZE
MaxDropDownItems プロパティを使用した表示項目数の設定

¥OPERATIONITEMS
アイテムの操作

¥OWNERDRAW
オーナー描画

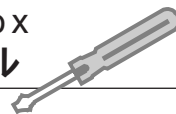
はじめに



本連載は、Visual Basic .NET (以下VB.NET) の標準コントロールにスポットを当て、とことん使い込んで、その機能や役割を探っただけです。

7月号から9月号にかけて、ユーザーにある項目を選択してもらうようなUIを作成する際に使用する、ListBox コントロールやChecked ListBox コントロールについてお話ししてきました。今回は、それらと同じような目的で使うことができるComboBox コントロールを取り上げて見てゆきたいと思います。

ComboBox コントロール



ComboBox は、ユーザーが選択できる項目のリストを表示することができるコントロールです。これはListBox コントロールと同じです

が、ComboBox では項目のリストが表示されるリストボックスの他に、項目を入力することができるテキストボックスを備えており、あらかじめ用意された項目以外の値を入力することも可能です。このことから用途として、以下のような使い分けで使用するのが適切です。

ListBox コントロール

リストの中の決められた項目のみを値として指定する

ComboBox コントロール

リストの表示は行なうけれどもその項目以外の値も受け付ける

また、ComboBox コントロールは、リストを表示する下矢印▼をクリックするまでは、テキストボックスエリアのみの高さしかないため、“フォーム上で場所をとらない”ということも利用する大きな理由になるかもしれません。図1はフォームに配置したComboBox コントロールの下矢印をクリックした際

図1 : ComboBoxコントロール

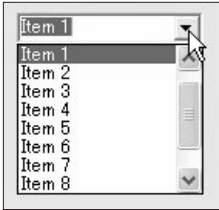
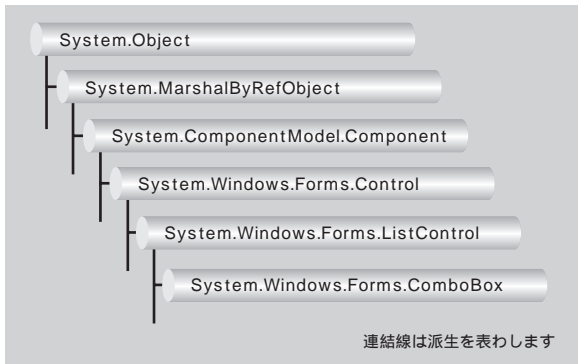


図3 : DropDownStyle



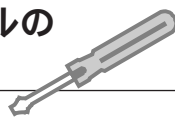
図2 : ComboBox階層図



の表示です。

ComboBox コントロールは図2のようなクラス階層になっています。

ComboBox コントロールの表示形式



ComboBox コントロールは、プロパティによる表示形式の変更が可能です。表示形式により若干コントロールとしての機能も変わってくるようになります。

◆ DropDownStyle プロパティ

DropDownStyle プロパティは、ComboBox コントロールのスタイルを指定する値を設定します。この値はスタイルを表わすComboBoxStyle 列挙体の値を指定します(表1)。各スタイルはリストがドロップダウン形式か否か、テキストボックス部分が編集可能か否かを決定し、既定値はDropDown スタイルです。

リスト1は、フォームに配置したComboBox コントロールのDropDownStyle プロパティを、RadioButton コントロールのチェックによって動的に変更するサンプルで

表1 : ComboBoxStyle 列挙体

メンバ名	内容
DropDown	ドロップダウン形式のリスト表示で、テキストボックス部は編集することが可能
DropDownList	ドロップダウン形式のリスト表示で、テキストボックス部を編集することはできない
Simple	リストが常に表示され、テキストボックス部は編集することが可能

す。図3は、このサンプルの実行画面です。DropDownStyle プロパティを設定した各ComboBox コントロールの表示形式の違いを示しています。

リスト1のように、このプロパティを他の値から動的にComboBoxStyle.Simple スタイルに設定した場合には、コントロールを適切な高さに再設定する処理も必要になります。再設定処理を行なわなかった場合には、方向キーでしか項目の選択を行なうことができなくなってしまうので、注意が必要です。

図3の各スタイルの中に常にリストが表示され、テキストボックス部の編集は不可のオプションがないのがわかりますね。そう、そのような場合にはListBox コントロールを使用します。

この各スタイルでは方向キーでの選択動作も異なるものになります。

DropDown とSimple スタイルでは、上下方向キーでアイテムの選択の変更、左右方向キーではテキストボックス内の文字列のカーソル位置の変更となります。対して、DropDownList スタイルの場合は、上下左右方向キー共にアイテムの選択の変更を行なうことができます。

◆ DropDownWidth プロパティ

DropDownWidth は、ComboBox コントロールのドロップダウンリスト部分の幅を設定するプロパティで、ピクセル単位のInteger 値を設定します。

フォーム上でのコントロールの幅に制限があり、かつ